

# 外国人高校留学生が日本語学習者としてもつ特性と制約

村野 良子

はじめに

ここで扱う外国人高校留学生とは、異文化体験を目的として、日本の家庭で家族の一員として生活をともにし、日本の高校に通いながら一年間日本に滞在する高校留学生のことである。日本語学習者としての高校留学生については、塩沢(1991)が数例をあげて、日本語学習と現場での問題点を指摘しているが、実態はほとんど知られていない。

高校留学生に対してどのような日本語教育が必要であり、可能なのだろうか。筆者は留学生の日本語学習と指導をめぐる実態を把握し、その制約や困難点を明らかにするとともに、日本語指導の内容について資料を得るために、留学生、および受入れ側の家庭と高校、受入れ援助者を対象にしたアンケート調査や面接調査を実施した。ここでは一連の調査の結果明らかになった高校留学生の日本語学習と指導の実態について報告し、高校留学生が日本語学習者として持つ特性と制約について考察したい。

## 1 調査の時期と方法

この調査の対象となったのは国際交流団体AFS日本協会が日本に受け入れた留学生である。留学生は3月に来日し、一週間程度のオリエンテーションの後、日本各地の受入れ家庭に2月まで滞在し、高校に通う。

この研究の主調査は1991年7月に、留学生、受入れ家庭、受入れ校担当者に対して調査票を郵送する方法で行った。それぞれ190通郵送し、回収率はそれぞれ71%、69%、69%であった。

アンケート調査に加えて、7月から8月にかけて、都内の受入れ校(国立1、都立2、私立5)の担当者ならびに留学生2名に面接調査を、1992年の2月に、地方の受入れ先の家族と受入れ援助グループに対する面接調査を行った。これは自己申告方式の記入調査では出てきにくい本音の部分を、インタビューによって聞き出すためである。

この主調査に先立って、1990年5月および1991年2月に受入れ校の担当者に対して留学

生の日本語習得について予備調査を行い、調査票作成の資料とした。

主調査に使用した質問表は、留学生に対しては英語で、担当者に対しては日本語で作成した。以下、2では、留学生に対する調査結果をもとに、留学生と日本語学習について、3では受入れ校の担当者からの回答をもとに、受入れ校における日本語指導の実態と留学生の高校での生活について、そして4では受入れ家庭に対する調査結果から家庭におけるコミュニケーションの問題について考察する。考察に使用した調査票は資料として後ろにまとめた。

## 2 留学生と日本語学習

### 2-1 留学生の属性

留学生の出身国、年齢、性別、および過去の来日経験について調査をした。

調査に使用したアンケートはアンケート資料1である。

まず出身国別にみると、オーストラリア、ニュージーランドが最も多く全体の約60%をしめる。次いで、アジア(タイ、インドネシア、マレーシア、香港)19%、ヨーロッパ13%合衆国10%の順である(表1)。年齢について見ると、16~7才が最も多く、68%、18才が20%強である。(表2)性別では、女子が男子の約3倍である。過去に来日した経験がある留学生は11%である。

表1 出身国別

オーストラリア	38%
ニュージーランド	20%
アジア	19%
ヨーロッパ	13%
アメリカ(USA)	10%

表2 年齢別

17才	42%
16才	26%
18才	21%
15才	11%

### 2-2 日本語学習歴と学習方法・使用教材

次に日本語学習歴についてたずねた。使用したアンケートは資料2である。

留学生の日本語学習歴をみると、来日前に何らかの方法で日本語を学んだ経験のある留学生は54%で、学習年数は、3週間から10年まで様々であるが、2年が最も多く33%、3年が13%、6か月未満が10%で、3か月未満が16%となっている。さらにこれを出身国別にみると2年以上の学習歴を持つ生徒はオーストラリア、ニュージーランドに集中してい

るのに対して、6か月と答えた生徒にはヨーロッパ出身者、3か月未満はインドネシア、タイ、マレーシア出身者が多いことがわかる。

母国での指導の方法については、オーストラリアの生徒の大多数は日本語の母語話者による教室指導を受けているが、ヨーロッパからの留学生は個人指導による学習が多く、ニュージーランドの留学生では通信教育による学習が大多数を占めている。

母国で使用した教材は、オーストラリアを中心にアルフォンソの日本語教材を使用した生徒が圧倒的に多いのに対しニュージーランドでは通信教育がかなり普及しているらしいことがうかがえる。またアジア諸国では「日本語の基礎」が、ヨーロッパでは、Japanese for Beginners、「AFSにほんご」を始めオリジナル教材も使われている。

### 2-3 留学生の日本語能力

留学生の日本語の習得の目標、到着時の3月時点での日本語能力、および調査した7月時点の自己採点による日本語能力の評価をみてみよう。留学生の自己判定は資料3の質問Cによって、a~mまでのことができた/できる/できるようになりたいかどうかを選択する方法で行った。

留学生の自己診断によると、来日当初は大多数は簡単な挨拶を含めた最低限必要な事ができただけだった。半数が食べ物の好き嫌いや好みなどが言えたと答えているが、コミュニケーションが何とかできたと感じているのは1割前後にすぎない。ところが、7月の調査時には、日常的なコミュニケーションには不自由しなくなっている様子がうかがえる。回答者の45人(34%)は実技科目が理解できると答えており、社会問題について議論ができる、丁寧語の使い分けができると答えた留学生はそれぞれ、32人(24%)、25人(19%)に上る。

次に留学生が日本語の到達目標をどのように考えているかについてみると「高校の講義中心の授業が理解できる」ようになりたいと考えている生徒の数は107人(81%)、「新聞が部分的に読める」ようになりたいと思っている生徒も86人(65%)に上る(表3 留学生による日本語能力自己評価と到達目標 回答数131)。

留学生自身による自己評価や到達目標の調査データには2つの大きな問題点がある。まず、自己評価は信頼性に疑問がある。「できる」「できない」という評価には個人差があり、正確に能力を反映しないからである。次に到達目標が高いことが動機付けの高さとは結びつかないという点である。実際生徒Aが「テレビやラジオの番組がわかる」ことが目標であるといっているにもかかわらず、「Aは家族の中では全く日本語を使おうとしない」「英語の映画ばかり見ている」という家族からの証言、「英語でしか話そうとしない」という教師からの証言がある事例は少なくなかった。「口に出して『努力する』とはいうが、努力している姿勢が見られない」という受入れ側からの不満もよく聞かれる。到

達目標にむかって自己コントロールをし、努力できるかどうかということまでを「動機付けが高い」ことに含めるとすれば、この表3の数字だけを見て、生徒の動機付けが高いとは即断できないだろう。

表3 留学生の日本語能力自己評価と到達目標 回答 131人

	3月	7月	2月	
a	100人	131人	131人	a 挨拶、食事など家庭内の最低限の用が足せる
b	63人	129人	131人	b 食べ物の好き嫌いや好み可言える
c	15人	108人	122人	c 家庭外での最低限の用が足せる (買い物、食事の注文など)
d	10人	101人	121人	d 家族の日常会話に部分的に参加できる
e	5人	93人	116人	e 学校の友人との会話に部分的に参加できる
f	10人	93人	113人	f 友人に簡単なメモや手紙が書ける
g	2人	45人	114人	g 高校の実技の授業が理解できる
h	0	6人	107人	h 高校の講義中心の授業が理解できる
i	5人	48人	109人	i 短い作文が書ける
j	0	32人	112人	j 社会問題や時事問題について議論できる
k	0	18人	106人	k テレビやラジオの番組がわかる
l	0	25人	83人	l 敬語や丁寧語の使い分けができる
m	0	1人	86人	m 新聞が部分的に読める

次に留学生の日本語能力のより客観的な把握のために、受入れ側の評価を聞いた。先ず受入れ学校の担当者に初登校時の4月と調査時の7月の留学生の日本語能力を話す・聞く・読む・書くの4技能について評価してもらった。評価のための基準としては、ACTFLの言語能力基準を参考にして筆者が作成した評価の基準(資料4)に照らして、A~Jの記号で答えてもらった。

受入れ担当教員による評価をみると、4月に初めて登校した時点では、最低限のコミュニケーションさえ難しく、挨拶や設定が明らかな場面での決まった言い方が理解でき、ひらがなとごく僅かの読み書きができるだけだった留学生が最も多い。しかし7月にはほぼ半数の生徒は日常的な範疇に入る事柄は聞いて理解できる上、そのような場面において、必要な対処をし、簡単なことなら、読んで情報を理解し日常的行動について簡単な文を書くことができるようになっている(表4)。

スタートした時の日本語能力が既にかなり異なるので、7月時点でも幅はあるがほぼ全員が日常生活には困らなくなっていることがわかる。これは4で述べる受入れ家庭における日本語能力の評価によっても裏付けられている。

表4 受入れ校担当者による留学生の日本語能力の評価 回答 132校

(A～Jの能力の記述については資料4を参照)

	話す	聞く	読む	書く
4月	O～A 56% B 26% C 14%	O～A 61% B 25%	O～A 60% B 25% C 10%	O～A 72% B 1%
7月	E 33% D 20% B 18% C/F 9%	E 29% B/D 9%	D 22% C 21% B/E 19%	D 30% B 16% A/E 13% C 11%

留学生の日本語能力に関しては、富谷（1989）が短期の語学研修を目的とした留学生の日本語能力を会話テストによって調べているが、一年間の言語習得についての実証的な研究は未だない。予備調査として筆者は1991年2月に受入れ校担当者に前年の4月と帰国時点での留学生の日本語能力を前述の評価表によって記述してもらった。その結果、僅かでも日本語学習経験のあった留学生の多くは、学校内外の用を十分に果たし、積極的に会話に参加することができるようになっており、日本の印象や感想を漢字を使って、段落のある文章で書くことができるようになってきている。最も上達が遅いグループでも、日常生活に必要な話し言葉は習得していることを知ることができた。1991年の予備調査に使用した質問表は資料5である。

#### 2-4 日本語学習の動機

次に日本語学習に対する留学生の態度を知るために、現在高校で行われている日本語指導に対する評価、満足度とその理由、改善案、および日本語の学習と将来の設計との関連を聞いた（資料6）。

調査結果で見ると、留学生の日本語学習に対する動機は高い。帰国後も日本語の学習を続けたいと答えたのは134人中130人で、その理由としては、将来の仕事のため（58%）、日本語が上手になりたいから（30%）、日本と日本語が好き（21%）の順であるが、留学生の90%は将来の職業との関連で日本語をとらえており、日本語の習得が将来の仕事に有利であると答えている。オーストラリア、ニュージーランド、タイ、インドネシアの留学生には、観光業や日系企業への就職など具体的に職種を挙げている留学生も多い。近年日本が留学先として人気が高くなっている（AFSレポート、1992）が、日本語の持つ実利的な価値がその原因の一つであることがこの調査結果からも浮き彫りになっている。

### 3 受入れ高校の問題

日本の高校といえば、管理教育、受験体制といった窮屈なイメージがある。留学生の受入れはどこで決定され、どんな受入れ体制が組まれているのだろうか。高校の担当者に対してアンケート調査を行った（資料7）。

調査結果から留学生の受入れは校長の裁量で決定され、一部の協力的な教員が担当していることが多いことが明らかになった。受入れに伴う留学生の世話や指導、それにかかる経費をだれが負担するかという点についても自治体や学校によって対応は様々なようである。

留学生の指導に関して協力者がいる場合は39%で、生徒の中の留学経験者や外国人教員、海外研修に参加した経験のある教員、日本語のできる他の留学生などの協力を得ていると答えている。残り61%の高校では英語科の教員を中心に受入れに伴う仕事を分担している場合が最も多いが、担当者の負担が大きいことは共通している。

学校生活に必要な経費（本、修学旅行、部活費、制服など）は、高校や自治体が負担している場合がそれぞれ46%、12%であるが、生徒個人や担当教師が負担している場合もそれぞれ14%に上っている。留学生が英語授業の助手をすることに對する報酬として高校が負担しているという回答もあった。

受入れに伴う担当者の精神的負担を軽減し、財政的援助を公的に行うことによって留学生の滞在環境を整備していくことが早急に解決すべき問題である。

#### 3-1 受入れ校での留学生の学習

次に留学生の高校生活と日本語学習の実態について高校担当者に聞いた（資料8）。

留学生の年齢は15～18歳であるが、就職・受験学年である3年生と入学したばかりの1年生は外すという配慮から、留学生は2年生のクラスに入ることが最も多い。留学生はホームルームに所属して、一日の大半を特定のホームルームで授業を受けるホームルーム型と、英語の授業などを中心に選択して、多学年、（中高一貫教育の場合は中学校の英語授業に参加する場合もある）多クラスを移動して授業を受ける移動型がある。後者には授業が理解できるという利点があるが、仲間意識が育たないために友達ができにくい。前者の場合、何も分からずに授業時間を過ごす可能性がある反面、級友との仲間意識が生まれやすく、留学生にも好意的に評価されている。

実際にはホームルーム型の変形型が多く、英語や実技科目、理数科系科目はホームルームで受け、歴史や古典などは図書館や職員室で自習する形が最も多い。留学生によっては日本史や世界史なども含めてすべての教科を級友と同じように履修することを希望する場

合もあるが、一般的には理数系が不得意な場合は自習時間が多くなる。調査によれば、自習時間は平均週6～11時間であるが、留学生の興味や日本語力によって、時間割りは随時変更されている。日本語力によって、問題を英訳する、特別の試験を作成するなどの考慮がされるが、日本人高校生同様に教科を学習し、定期試験を受験している生徒もいる。次に見るのはある私立高校と都立高校での時間割りの実例である。

### ① A私立高校の時間割の例

	月	火	水	木	金	土
1	家庭Ⅱ	日本語 (大川)	体育	書道Ⅰ	音楽	英語Ⅱ
2	〃	自習	自習	〃	〃	〃
3	音楽	現代社会	書道Ⅱ	美術	体育	日本語 (飯田)
4	〃	〃	〃	〃	保健	ウィークリー レポート
5	日本語 (田中夕)	食物	仏語Ⅱ	LHR	英語G	
6	自習	〃	〃		〃	

### ② B都立高校の時間割の例

	1	2	3	4	5	6
月	日本語	理b	日本語	理a	数Ⅰ	数Ⅰ
火	理b	日本語	体育	体育	理a	社b
水	保健	英O	書道	書道	特講	諸活
木	日本語	社a	日本語	社b	体育	体育
金	音楽	音楽	日本語	英O	数Ⅰ	日本語
土	日本語	社a	数Ⅰ	HR		

### 3-2 高校での日本語指導の実態

日本語の指導を全く行っていない高校は134校中16校であるが、残り88%の高校では何らかの日本語指導を行っている。日本語指導の実態を1)指導者 2)指導法 3)使用教材 4)問題点 に分けてみていきたい。

#### 1) 日本語指導者（質問表は資料9）

協力者がいるのは28%の高校で、学校外の日本語教育専門家（9校）、日本語教師の資格を持つ教員（6校）、系列大学の日本語科（5校）、その他教会関係者や地域のボランティアグループの順である。その他の72%の高校では、数人の教師が空き時間を日本語指導に奉仕しているというのが最も多い形である。指導は英語科、国語科の教員、図書館員や体育の教員、管理職教員6～8人が交代で行うことが多い。

#### 2) 指導法（資料10）

記述式の回答で数が多かった順に挙げると次のような結果になる。

自由会話をする

生徒の質問に答える

教材の音読

作文や日記の添削

教材の翻訳

漢字の書き取り

練習問題

文法を英語で説明（英語科の教員）日本事情（社会科の教員）

町を歩いて説明する

#### 3) 使用教材（資料10）

47種類以上の教材が使用されている。留学生が来日直後のオリエンテーションで使用した教材（1、2、4）や母国の高校で使用した教材がそのまま使われることが多い。使用頻度の高い順に挙げると次のようになる。

1 Introduction to Modern Japanese

2 『新日本語の基礎』

3 『日本語初歩』

4 『AFS にほんご』

このほかには、大学生、ビジネスマン、技術研修生、就学生などの特定のグループを対象とした教材や一般成人向けの教材が使用されているほか、小学校低学年用国語／社会科教科書・漢字ドリルも広く使われている。幼児用絵本や英会話の教材、高校の英語教材、英語対訳付きの日本の古典も教材として使用されているが、視聴覚教材については、テープ教材やテレビの日本語講座の利用も数件報告されている。

#### 4) 問題点

資料11によって留学生と受入れ校担当者に問題だと感じていることを記述してもらった結果をみると、高校での日本語指導に対して留学生の56%は満足していると答えており、教員も留学生の学習態度を非常に良い（41%）良い（21%）と評価している。教員と留学



生双方が感じている問題点は次のように整理することができる。

1. 留学生は指導時間の増加を希望している（31％）が、教員の仕事量には限界がある。
2. 数人の教員が交代で行うため体系的な指導ができない。
3. カリキュラム、指導内容、進度、評価の方法が明らかではない。
4. レベルの把握ができないため適切な教材の選択が難しい。
5. 日本語の文法や表現を英語で説明することが難しい。

### 3-3 日本人生徒の反応

級友を含む日本人生徒は留学生にどのように関わっているのだろうか。留学生の意見(資料12)と担当者の感想(資料13)から見てみる。

留学生を取り巻く人々との関わり方を聞いた質問の中から同年代の級友に関する記述を拾ってみると、級友がよく手伝ってくれるというコメントもあるが、友人ができない、会話の中に入れない、また拒否されるというコメントが多い。異質の者に対する無関心や閉鎖性は、異文化間の問題というよりはこの年代に特有の傾向かもしれない。留学生と日本人生徒の交流は部活や修学旅行などを通して体験を共有することを契機として深まり、それが留学生の日本語習得にもプラスの要因になっていることが留学生と受入れ側の両方から報告されている。

## 4 受入れ家庭での問題

留学生の日本語習得を考える場合、大きな役割を果たすのは受入れ家庭での過ごし方である。受入れ家庭では疑似的な家族関係の中で一年間生活するわけであるが、そこでは異文化間コミュニケーションの問題、家庭内の人間関係の問題、留学生や同年代の兄弟の未熟さのために起こる問題がみられる。留学生の日本語の社会言語学的な誤用や学習スタイル、生活スタイルが受入れ家庭での人間関係にも影響を与える要因の一つとなっている。

### 4-1 家庭内コミュニケーションの実態

家庭内コミュニケーションの実態について、受入れ家庭(資料14)と留学生(資料15)双方の調査結果から、具体的に見ていこう。

受入れ家庭の調査結果によれば、7月時点での家庭内の会話は、日本語のみが68%、日英両語が25%であるが、挨拶以外は全て英語に頼っている家庭も5%ある。留学生の回答からも、日常的な会話が日本語で行われていることがうかがわれる(2-3)。しかし、「留学生が英語を使いたがる」「受入れ家庭の人が日本語で話してくれない」という相反する意見も双方から聞かれる。

家族の中でのコミュニケーションの量について、a. 家庭内で一番よく話す人 b. 家庭内で一番話す機会の少ない人を受入れ家庭と留学生の両方に回答してもらい、コミュニケーションの量の実態の把握と双方で意識の差が見られるかどうかを調べた。

表5は受入れ家庭と留学生が話す機会の多い人(a)と、少ない人(b)を回答数の多い順に並べたものである。回答は複数も可としたため、100%を越えている。これによると、留学生は母親との会話が圧倒的に多く、父親との会話が最も少ない。同年代の兄弟姉妹については、よく話す／会話がいないの両極端の回答が30～40%前後である。自由記述の中には、兄弟姉妹が複数の場合、いずれか一方とは話すが他方とは話さないという回答も20件あった。

だれと話すか、だれと最も話さないかについての現状の認識については、受入れ家庭と留学生の間で大きな順位の差はない。数字についてはa. 母と一番良く話すと認識している留学生が受入れ家庭を上回ったが、これは留学生にとってはホストマザーが最も頼れる存在として強く意識されているからだろう。順位についてほぼ同様の結果になっているのは、家庭内のコミュニケーションの実態が7月時点でかなり固定化しているからではないかと思われる。

表5 家庭内でのコミュニケーションの量

a. 家庭内で一番よく話す人

b. 家庭内で最も話す機会の少ない人

	受入れ家庭	留学生
母	55%	70%
兄弟姉妹	33%	35%
父	10%	10%
祖母	2%	

	受入れ家庭	留学生
父	49%	31%
兄弟姉妹	35%	41%
祖父母	16%	12%

留学生の存在によって家庭内の人間関係の力学に変化がおきること、留学生の存在が兄弟姉妹に様々な形で影響を与えることは長井(1990)によって指摘されているが、今回の会話量の調査にも4ヶ月の間に家庭内に新しい人間関係が形成されていること、兄弟姉妹の関係が複雑になっていることなどが伺えた。

一方、自由記述の中からコミュニケーションの全体量が少ないと感じている留学生がかなりいることも明らかになった。その原因としては、両親の共働きや同年代の子供の塾や遠距離通学のため、家庭ではひとりである時間が長いことがあげられている。日本語の習得という観点からみても、家庭内での言語によるコミュニケーションの量をどう増やすかということが課題である。

#### 4-2 家庭内コミュニケーションの問題点

留学生が受入れ家庭に到着したときに、言葉によるコミュニケーションで何が最も困難な点だったのか、そして5か月を経過した時点での困難点はどんなことか。解決のためになにをしているかを聞いてみた（資料16）。

アンケート結果を「言葉をめぐる問題」と「生活面での問題」に分けて整理してみると次のようになる。

言葉をめぐる問題	生活面での問題
<ul style="list-style-type: none"><li>・乱暴な言葉や悪い言葉の使用</li><li>・目上の人に対する言葉遣い</li><li>・挨拶</li><li>・日本語で話す意欲の欠如</li><li>・日本語の文字の学習意欲の欠如</li><li>・接続詞や助詞のない、短い文の使用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・帰宅時間が不規則</li><li>・同国人との長電話</li><li>・部屋の片付け、洗濯等をしない</li><li>・物質的な欲望</li><li>・勝手な行動</li><li>・衛生観(風呂・トイレ)</li></ul>

受入れ家族が言語によるコミュニケーションの問題であると認識している問題は、敬語や丁寧語の使い分けができないために失礼な言い方になること、語用論の面での誤用が誤解につながること、留学生からは、日本人の言葉と本音の食い違いに対する戸惑いが報告されている。言葉が少しできるようになった7月ごろから、コミュニケーションの行き違いの問題が多くなってきたという意見もある。

言語面での問題以外に生活や規則について留学生が注意を聞かない、怠惰だなどの問題が指摘されている。留学生が年齢的にも未熟であることの他に、受入れ側の留学生にたいする期待が過剰であるということも原因の一端であろう。

しかし小さな行き違いは摩擦や不和に繋がりやすい問題であり、家庭内のコミュニケーションの障害は留学生の学習動機にも大きな影響を及ぼす要因である。言葉を教える行為にはコミュニケーションの視点が忘れられてはならないだろう。

#### 5 日本語学習者としての高校留学生

2では高校留学生の属性と日本語学習歴や学習目標について高校生側から記述した。3では受入れ側の高校における日本語指導の実態と留学生のおかれた状況と問題点について

考察した。4では受入れ家庭におけるコミュニケーションの問題について調査結果からわかることを述べた。ここでは特に日本語によるコミュニケーション能力がゼロ、ないし極めて低い留学生の高校生活の実態、高校の対応、家庭での問題点、さらに日本語の指導に焦点を当てて考察した。

以上の調査から日本語学習者としての高校留学生は次のような特徴をもつ集団として考えることができるだろう。

1. 日本語を第二言語として学ぶ。
2. 目標は日本社会への同化ではなく、異文化理解にある。
3. 来日直後から日本の受入れ家庭と高校を中心に生活する。従って、彼らは言語／非言語によるコミュニケーションを日常的に行いながら言語運用を学ぶ。
4. 日本語学習が必要だという認識を持っている。
5. 高校に在籍する生徒であり、高校生としての教科の学習や社会や世界の問題についての学習も並行して行う。
6. 15～18才の多感なしかもまだ未熟な「発展途上の人間」である。

一方留学生を受入れる側にも、現実には様々な制約がある。

1. 受入れ校の多くは、教員にもカリキュラムにも、日本語による意志疎通が難しい生徒を受け入れるだけの余裕があまりない。
2. 日本語の指導は教員の厚意にたよることになり、体系的な指導が難しい。全く日本語指導を行っていない高校もかなりある。
3. 留学生の日本語学習は自立的な要素の強い学習にならざるを得ない。
4. 受入れ家庭における日本語指導は、時間的にも技術的にも難しい。

## むすび

ここで報告した調査は、留学生の日本語学習と指導という立場から、高校留学生が置かれている状況を把握するためのものであった。高校生の交換留学制度は30年余りの歴史を持つにもかかわらず、異文化体験が大きな目標であるということから、日本語習得について関心が払われることはあまりなかった。

しかし近年日本語が世界の幾つかの地域では初等中等教育の場でも教えられるようになり、留学生の側からも日本語を学びたいという要望が強くなってきている。留学生を取りまく状況が急速に変わらないにしても、受入れ側の様々な事情や制約を考慮しつつ、どんな形の日本語指導が可能なのか、何をどう教えればよいのかについて考えなければならぬだろう。

引用資料

- ①小林薫江 (1992) 「国際交流の歩み」東京都文化振興会国際交流部留学事業課懇談会資料より抜粋,1992
- ②茨城 健 (1992) 「留学生受入れ状況について」東京都文化振興会国際交流部留学事業課懇談会資料より抜粋,1992

参考文献

- 塩沢 正 (1991) 「高等学校での外国人留学生をめぐる諸問題と国際理解教育」  
The Language Teacher 11 , 15 - 18
- 富谷玲子(1989) 『AFS 交換高校生日本語能力テスト—作成・実施・結果に関する報告書』 AFS・笹川平和財団委託研究
- 長井 進(1990) 『AFS 留学生サポートマニュアル』 AFS 日本協会
- 牧野成一(1987) 「ACTFL 言語能力基準とアメリカにおける日本語教育」 『日本語教育』 61号, 日本語教育学会

[資料 1]

- A 1. Nationality \_\_\_\_\_ 2. Native language \_\_\_\_\_
3. Age \_\_\_\_ 4. Sex: M F
5. Name of your home school \_\_\_\_\_
6. Name of your host school \_\_\_\_\_
- B Have you been to Japan? If you have, how many times and for how long?
- 1 No 2 Yes how many times? ( )
- how long ( )

[資料2]

D Have you studied Japanese before?

1 never 2 yes

If your answer is yes, please fill in the blank below.

dates: From \_\_\_\_\_ to \_\_\_\_\_

place: \_\_\_\_\_

textbooks used: \_\_\_\_\_

method of study: ( ) self-study ( ) by correspondence ( ) classroom situation  
( ) tutor ( ) other \_\_\_\_\_

instructors: ( ) Japanese native speaker, ( ) native speaker of your language  
( ) both, ( ) other \_\_\_\_\_

hours of instruction: \_\_\_\_\_

What language did the instructor use primarily when teaching? \_\_\_\_\_

[資料3]

C In Column A, check what you could do in March, in Column B, what you can do now and in Column C, what you would like to be able to do at the end of your stay in Japan.

- a. can communicate with the family minimally on daily matters: meals, greetings, taking a bath, etc.
- b. can express likes, dislikes, or preferences
- c. can communicate with the people outside the family: shopping, traveling, asking directions, asking for information, ordering food, explaining health problems, etc.
- d. can participate in daily talks within the family
- e. can participate in conversations with school friends
- f. can write simple notes or letters to a Japanese friend
- g. can understand high school classes: PE, home economics, music, art, etc.
- h. can understand high school lecture classes
- i. can write a short essay in Japanese
- j. can discuss social events, customs, etc.
- k. can understand TV or radio programs
- l. can handle different speech styles (honorific, humble, etc.)
- m. can read a newspaper in Japanese

Column A

Column B

Column C

.....

.....

.....

.....

.....

.....

[資料4]

※ 外国語能力の評価尺度 ※

	話す能力		聞く能力	読む能力		書く能力	
初級 の 一 般 的 特 徴							
「初級」	A	1)発音は母語の影響が強く日本人にはわかりにくい	A 低かな単語 (10程度)と習った語句が使える (挨拶等)	1)状況が明らかな場面で既習の語句を認めることができる (ex.挨拶表現、直接場面・対面した場面の事物の名称、決まった情報)	1)ひらがな、片假名と頻度の高い漢字100字程度が読める 2)単語中心の短い情報がわかる	A ひらがなが少しわかる	1)ひらがなと頻度の高い片假名、漢字(50位)が書ける 2)短い文(ex.買物のリスト、宿題、予定のメモ)が書ける
	B	2)単語と暗記した(習った)語句を使い最低限のコミュニケーションをすることができる	B 単語の量は増える(20-25)が、文にはならない	2)外国人のためにはっきり、わかりやすく短い文で話されたことが大理解できる		B 辞書のローマ字でよく見る仮名やカタカナなどがわかる	
	C	3)簡単な質問ができる	C 暗記した基本文が話せる。文の出現頻度は1/2以上			C 外国人のために書かれた文が読める	
中級 の 一 般 的 特 徴							
「中級」	D	1)外国人の発音に慣れた日本人には理解できる	D 文で話す時単語レベルになることもある	1)日常生活のための最低限の情報を理解できる(天気予報、乗換クラスの情報、クラスでの伝達事項)	1)単語レベル(ex.切符、交通標識、時刻表、電話番号、番札、ローマ字、文レベル(ex.短い伝言、時刻表、広告文)のものから情報が得られる		1)毎日の行舟を書いた文を使って記録できる(短い日記/ex.今日は雨が降りました)
	E	2)身近なことを文を使って話すことができる (ex.昨日は友達と本屋へ行きました)		2)身近なこと(家庭内での話、交通手段、滞在場所、買物)について話されたことを理解できる	2)記号や符号、図表、イラストなどが中心の教科書がわかる 3)日常的な手紙が理解できる 4)学校からのお知らせのプリントがわかる(文化祭、健康診断など) 5)漢字は400-500字程度は読める		2)近況を知らせる簡易、短い手紙が書ける
	F	3)頻度の高い日常状況が処理することができる(買物、持ち合わせ、連絡、約束)	F この段階では上級のことも半分以上できる				
上級 の 一 般 的 特 徴							
「上級」	G	1)外国人の発音にも慣れていない普通の日本人にも理解できる		1)テレビドラマなどの視覚的助けのあるものをほぼ理解できる	1)料理法、やさしい新聞記事、短編小説が辞書を使って読める		1)漢字かなまじり文で教科書、グラフの長さの論議文、叙述文を書くことができる
	H	2)接続詞を使って段落のある話ができる(経歴、将来の進路、旅行、家族のことなど)		2)様々な問題に関する程度の長さの録音の大意がとれ、細部もほぼわかる	2)歴史や社会などの教科書を辞書を使って読める		2)目的を持った手紙(ex.依頼、断わりの手紙)が書ける
	I	3)積極的に会話に参加し、学校内外の用が十分果たせる 4)関心のあることについて、説明や叙述ができる 5)こまいった状況が処理できる(ex.欠席の書置、弁解、買った物の返品) 6)敬語がかなり使える。内と外の言葉の使い分けがかなりできる。間違えることもある。		3)異文化クラス、ホームルームの話し合いがすべて理解できる	3)漢字は1200-1500字位読める		
超級 の 一 般 的 特 徴							
「超級」	J	1)日本人にも全く問題なく理解できる 2)抽象度の高い話題について意見も述べたり、議論したりできる 3)公的場面でのスピーチ、会話、様々な媒体での話し言葉を使い分け、会話に参加することができる		1)テレビのニュース、スピーチ、座談会などを正確に理解できる 2)社会、歴史、現代用語など、言葉にたよることの多い資料の精読が理解できる	1)現代問題の教科書、新聞の政治面も辞書を使わずとも大理解できる 2)各教科の試験問題も誤りなく理解できる		1)授業のレポート、論文形式の試験答案をほぼ間違いなく書くことができる 2)日本人に誤解を受けることのない文章が書ける

[資料5]

1 生徒の日本語能力について：4月到着時と現在

添付の能力基準を参考にして話す、聞く、読む、書くの4技能についてお答えください。

い。(A～Jの記号をお願いします)

	話	聞	読	書
4月				
7月				

[資料6]

I. Are you happy with the Japanese language instruction you are receiving now?

If so, state the reason. If not, how do you think can it be improved?

1 Yes

2 No

reason \_\_\_\_\_

your ideas \_\_\_\_\_

J. Do you wish to continue your study of Japanese after you return home?

Why?

1 Yes

2 No

reason \_\_\_\_\_

K. Will your knowledge of Japanese be necessary or beneficial to you in the future?

1 Yes

2 No

reason \_\_\_\_\_

[資料7]

1. AFS 生の受入れは今回が初めてですか。 初めて  回目
2. AFS 生以外の外国人留学生を受け入れたことがありますか。 帰国生はいますか。
3. AFS 生の受入れは誰が決めましたか。 ex. 校長, 職員会議,   先生
4. AFS 生の受入れについて職員会議の様子はどうでしたか。  
ex. 好意的, 乗り気ではない, 無関心, その他
5. 担当者はどのように決めましたか。 ex. 校長の命令, 自ら希望, 同僚の推薦, その他
6. 担当者になったときの最初の気持ちはどうでしたか。 ex. 面倒, 心配, 期待, その他
3. AFS 生の日本語講習、特別授業などのための教材費 (AFS 生用, 教師用) はどこ (だれ) が負担していますか。どこが負担すべきだと思いますか。  
イ. 学校    ロ. 都道府県    ハ. 家庭    ニ. 生徒個人    ホ. 担当教師    ヘ. その他  
コト ( \_\_\_\_\_ )
4. 学校で AFS 生の日本語指導を引き受けることについてどう思いますか。  
イ. 当然    ロ. 仕方がない    ハ. 外部の機関 (教師) に委託するほうがよい  
ニ. その他 ( \_\_\_\_\_ )



[資料8]

2. AFS 生の所属学級はどのように決まりましたか。ex. 担任のクラス, 英語科教員のクラス, ホストファミリーの子供と同じクラス, その他
3. AFS 生の時間割は誰が、どのように決めましたか。ex. 生徒自身, 学校の前例に従って教師の判断, AFS生の受入れに協力的な教師の授業, 実際に授業に出で見て双方で判断
4. 普通授業に参加する場合、宿題、課題、授業参加、テストなどはどのように扱っているのですか。 ex. レポート, 特別テスト(英語で)の用意, テストなし

[資料9]

- a. 生徒の日本語指導担当者 (ex. 英語科教員 2名が交代で) 複数の方が指導にあたる場合は全員書いて下さい。

\_\_\_\_\_

- b. 上記の方の他に協力者(例えばボランティアの主婦とか海外からの帰国生、留学経験のある同僚など) がありますか。いる場合はどんな人ですか。

イ. いない ロ. いる \_\_\_\_\_

- c. 語学指導に関して相談できる教育機関、専門家が近くにいますか。どんな人ですか

イ. いない ロ. いる \_\_\_\_\_

[資料10]

- e. 使用している教科書、参考書、辞書、テープ教材を書いて下さい。

\_\_\_\_\_

何が使いやすいですか。なぜですか。

\_\_\_\_\_

他にどんな教材があればいいと思いますか。

\_\_\_\_\_

- f. どんな方法で教えていますか。(ex 2人で会話練習をする, 読んでやくす)

\_\_\_\_\_

- g. どんな教具、設備を使いますか。使うものに○を付けて下さい。

テープ, ビデオテープ, テレビ, ワークプロ, LL, 50音図, 電子手帳  
かるた, 絵教材, マンガ, 雑誌, その他( )

- h. 宿題やテストがありますか。どのくらいですか。

イ. ない ロ. ある ( )

[資料11]

- H. Do you have any questions regarding your language study?

Please feel free to ask anything you want.

i. 生徒の学習態度はどうか。

j. 指導していて困ったこと、疑問点などありましたら具体的に書いて下さい。

[資料12]

C. Do you have any friend or family or any adult who can help you with your homework or any other difficulties? 1 No 2 Yes (who? )

[資料13]

IV クラスメイトとの関係

1. クラスメイトはAFS 生をどうよんでいますか。先生がたは？
2. クラスメイトはAFS 生にどんな対応をしていますか。ex. 好意的, 無関心
3. 授業が分からなかったときなどクラスメイトはAFS 生を助けますか。
4. そのことによって、困ること、いいことがありますか。
5. クラスメイトはAFS 生とどんな付き合いをしていますか。
6. AFS 生の存在は他の生徒に対してどんな影響を与えていますか。

良い影響 悪い影響

[資料14]

- 3 日常生活で使用する言語は何ですか。 ( )
- 4 どんな時日本語以外の言葉を使いますか。 \_\_\_\_\_
- 5 家族の中でAFS生の母国語を話す人がいますか。だれですか。  
イ. いない ロ. いる ( )
- 6 AFS生は家族の中でだれと一番よく話しますか。 ( )  
AFS生は家族の中でだれと一番話す機会が少ないですか。 ( )

[資料15]

G. Who in the host family do you speak to most and least?  
most \_\_\_\_\_ least \_\_\_\_\_

[資料16]

- 2 生徒との言葉によるコミュニケーションの上で困ったこと/困ることがありますか。  
到着時  
現在  
どんな方法で解決しましたか/していますか。